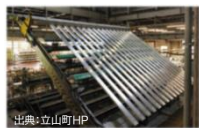


インフラ整備のビジョン

北陸の元気なくして日本の元気なし！

■ 北陸地域のポテンシャル

- ① 三大都市圏に隣接する地理的優位性
 - ▶ 日本列島のほぼ中央に位置し、三大都市圏・東北圏から概ね300km圏域
- ② キラリと光る「モノ」づくり
 - ▶ 付加価値の高いモノづくり産業 (北陸各県の1人当たりの製造品出荷額は日本海側トップクラス)
- ③ 世界に誇る観光地
 - ▶ 自然や歴史・文化を活かした多くの観光資源



北陸地域の最近の話題

- 【新潟県】「2025年冬の人気観光地(国内)」新潟市が1位 ※1
- 【富山県】「2025に行くべき52カ所」に富山市が選出 ※2
- 【石川県】「2026年に訪れたい旅行先ベスト20」に石川県が選出 ※3

※1 2025年12月 世界最大の旅行プラットフォーム「TripAdvisor」(トリップアドバイザー)が発表
 ※2 2025年1月 アメリカのニューヨーク・タイムズ「The New York Times」が発表
 ※3 2025年12月 英国放送協会(BBC)が発表

■ 地域基盤のリスク

- ① 頻発する地震
- ② 激甚化する豪雨
- ③ 短期集中的な降雪
- ④ 進む施設の老朽化

■ 地域の守り手として



北陸の建設業の未来創造に向けた

3本柱

～3Kから『新4K』へ～ 魅力ある建設業に向けて

直轄から公共セクター(県・市町村)～民間へ

柱その1 適正利潤の確保

■ 物価高騰等に対応した適正な積算・発注

- ・ 金水準や物価水準の変動に対応したスライド制度
- ・ 見積活用型積算による適正な予定価格の設定



■ 見積活用型積算方式

- ・ 歩掛や材料費について標準積算との乖離への対応

■ 建設資材の現地実態反映

- ・ コンクリートやアスファルトについて実勢価格と現地実態価格の乖離への対応

■ 地域外からの労働者確保

- ・ 労働者確保に要する方策を変えざるを得ない場合への対応

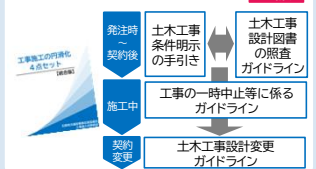
■ 適正工期の設定、工期・納期の平準化

- ・ 国債の活用等により業務・工事双方の工期を適正化・平準化
- ・ 業務は形態に応じて発注時期・納期をサイクル化して、計画的な業務遂行を実現
- ・ 「業務履行の平準化ガイド」により、受発注者相互で業務平準化の理解拡大を推進

柱その2 変わる待遇・働き方

■ 建設業の給与改善

- ・ 他産業と開差のある建設業の給与水準を、継続的な労務単価の引上げ等により、労働環境に相応しい賃上げを推進

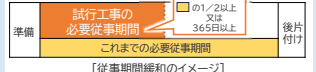


■ 週休2日を含む多様な働き方の実現

- ・ 週休2日取組の拡大
- ・ 週休2日の質の向上
- ・ 多様な働き方の実現

■ 週休2日対象工事の拡大

- ・ 発注者協議会の取組として、地方公共団体等を含め週休2日対象工事の発注件数を拡大



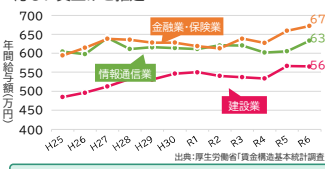
■ 適正な労務費の確保・行き渡り

- ・ 著しく低い労務費等の禁止 (違反者への適切な指導)
- ・ 賃金支払い実態の把握等

柱その3 未来につながる建設現場

■ BIM/CIM原則化と人材育成

- ・ 工事契約図書化に向けた施工業用3次元モデル作成試行工事を実施
- ・ DX研修や出張DXルームの開催数を拡大し、建設工事等の技術者のDXを推進
- ・ ICTアドバイザーやバックオフィス(内装化)の取組検討により、ICT施工等を支援



■ 工事書類の簡素化・統一化

- ・ 受発注者意見を踏まえ、スリム化ガイドを改訂し、更なる高みへ
- ・ 自治体の書類を直轄でも使えるよう工事関係書類の片乗り入れを拡大

■ プレキャストの積極導入

- ・ VFMや一部製品でのプレキャスト標準使用によるプレキャスト製品及びプレキャスト要素技術の積極活用

■ 遠隔臨場による監督等の拡大

- ・ 遠隔臨場による段階確認や工事検査(中間技術検査)を積極実施

■ 新たな技術の積極導入

- ・ 施工管理等で現行の基準と異なる手法でも、効率化が期待できる新たなデジタル技術を機動的に導入

柱その3 未来につながる建設現場

■ 現場条件や気候変動等に対応した多様な働き方を支援

- ・ 「建設工事における猛暑対策サポートパッケージ」等による取組や作業環境改善を図る試行を実施



■ ウィークリースタンスの更なる高み

- ・ 全ての工事・業務において一週間の受発注者相互のルールを設定

■ 5R程度以下も実施

- ① ランチタイム・オーバー・ミーティング (昼休みや午後5時以降の打ち合わせをしない)
- ② アイニング・ノー・ワーク (定時以降、定時の依頼をしない)
- ③ 金曜日も定時の帰宅を心掛ける 他

■ 省力化に向けた3Dプリンターの活用を試行

- ・ 交通誘導システムを積極導入

■ 復旧・復興に向けた新技術の積極活用

- ・ 無人化施工